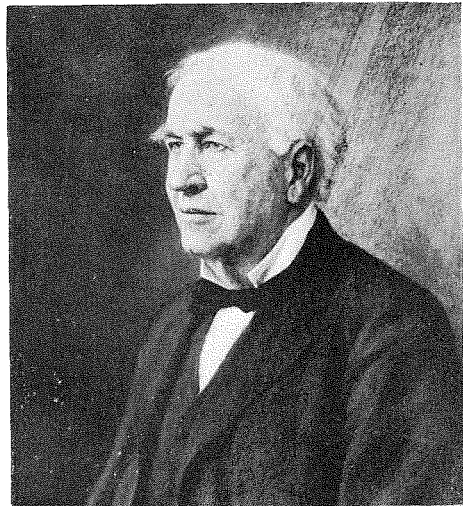


電燈五十年祭とエチソン翁

人類生活にまつて、最大の便利と幸福を齎した電燈が、世界的發明王エチソン翁に依つて發明せられてより本年は恰度五十年にあたるので文明各國に於て其記念祭を舉行されつゝあるが、社團法人工政會は井上理事長の名を以て翁の功績を頌し健康を祝する懇篤なる書狀を贈りたるに、今回翁より、日本に於て電燈五十年祭が盛大に行はるゝ事を謝し將來の發展を切望するの書狀來りし由、尙ほ工政會は近く發明王エチソン傳を發行する由である。



To Kosokai
with my compliments
Thomas A. Edison

寫眞はエチソン翁及び翁のサイン

小樽の渡邊兵四郎翁



左の壽字は小樽市の渡邊兵四郎氏の書である。氏は昨年御大禮に際し三十尺に二十五尺の大紙に壽の一大字を謹書して其寫眞を陛下に獻上したるを以て有名である。其の壽の大字を書するに筆の長さ八尺、墨汁七升餘を含ませ重量七貫目に達したと云ふ、精悍なる氏の長身に非ざれば能はざるの技である。

渡邊氏は六十九歳にして始めて書に志し、八十四歳の今日尙ほ筆硯を友としてをる。氏は北海道の草分にして小樽市の長老である。若き時は築港問題其他で道長官及び廣井博士と數々衝突したものであるが、廣井博士の人格には深く敬服して永く親交を結んだ人である。今回廣井博士記念事業の擧あるや氏は小樽防波堤當時を追懐して感慨無量の態である。